

標茶町立標茶小学校 フィールド学習 1 回目 実施内容

《概要》

[日程] 2022年5月27日(金)

[参加者] 5年生児童38名

[講師・案内] 崎川哲一さん(樹木医)

山本、安田(公益財団法人 北海道環境財団)

石下自然保護官補佐(環境省釧路自然環境事務所)

[フィールド学習の目的]

- ・湿原との最初の出会いの機会として、児童の興味関心を育む様々な要素に触れる。
- ・季節による変化を予想しながら植物、風景等を観察する視点を育む。

[実施プログラムの概要]

9:20 達古武オートキャンプ場到着

9:35 オリエンテーション

9:40 2グループに分かれてフィールドでの活動

11:30 フィールド学習終了

《実施内容(記録)》

■オリエンテーション(9:35)

○フィールドについての説明、散策する際の注意点確認、各グループ引率スタッフの紹介(北海道環境財団 山本)

■2グループに分かれてフィールドでの活動(9:40)

※以降は1つのグループの活動を記録(案内:崎川哲一さん(樹木医))

○湖畔にそそぎ込む小川沿いのヨシ原

背の高い植物の名前を知っている人はいるだろうか。(わかんない、ツルとかが使っているやつと声)これはヨシと言う。枯れているのは去年のヨシ。下から生えている緑色の葉が今年のヨシ。これがどんどん伸びて去年のヨシと同じくらいの高さになる。2回目に来た時に今年のヨシがどれくらい大きくなっているのか見てみて欲しい。



○湖畔

(すごいと子どもたちの声)ここは達古武湖と言う。湖と言っているが、実は湖ではなく沼。浅いから沼で、深いところでも2mくらいしかない。釧路湿原の一つで、釧路川とこの湖はつながっている。もう一度来た時に景色がどう変わっているか観察して欲しい。(湖畔に落ちていた黒い物体に児童が注目する)これが何か知っている人はいるだろうか。(マキビシと児童の声)これはヒシという植物の実。これが沢山増えて困っているという話もある。ヒシがどういうものなのか、気になった人は調べてみて欲しい。



○湖に注ぎ込む小川

先ほど魚がいた達武古湖につながっている。水を触ってみて先ほどの湖の水と比べてみて欲しい。（冷たいと児童の声）冬に触ったら暖かく感じる。なぜだろうか。この川はずっと山の方までつながっている。目の前の木がいっぱいある林にも下には水が流れている。

○小川沿いにキノコが付いた木を観察

木についているキノコが見えるだろうか。木に付くからキノコと言う。キノコが付いている木は何本あるだろうか。数えきれない程ある。キノコが生えている木の上の方を見ると葉はあるだろうか。（ない、キノコに吸い取られていると児童の声）キノコが付いている木は死んでいる木。（キノコが養分とっているの？治せる？なんで？と児童の声）もう治すことはできない。山の方を見ると緑色で木はあまり死んでいないように見える。湖に近づけば近づくほど葉っぱがついている木がなく、山に行けばいくほど死んでいる木は少なく見える。川が流れていることと、死んでいる木が多くなることに関係があるのだろうか。



○ヤナギの木の花を観察

いっぱい地面に落ちている芋虫のようなものは何だろうか。木の枝を見ると、沢山付いている。実はこれは木の花。花が終わって枯れて落ちたもので、ヤナギの木の花。花といえばタンポポのような花をイメージするかと思うが、これも花。気になった子は拾って観察してみるのも良い。

○遊歩道入口

遡ってきた川はここで終わりだろうか。（まだ続いとると児童の声）この水はどこから来ているのだろうか。この水は山から流れてきている。山から流れてきている水は何と言うだろうか。（山水、湧き水と児童の声）湧き水が正解。皆が触っていたのは湧き水。

○葉に虫が多くついた木

この虫の名前はハンノキハムシと言う。（この木はハンノキ？と児童の声）そうハンノキ。葉の裏を見てもオレンジ色のつぶつぶが付いていることがある。この虫たちは卵を産む葉っぱを探している。この後に卵が孵って幼虫が出てくる。一回成虫がいなくなると今卵の子が育って夏の前にもう一度成虫が出てくる。その後、土に潜ってこのまま冬眠する。



○ハチトラップ

これは何だろうか。ある虫を捕まえるためのもの。（カブトムシ、クワガタ、カミキリムシと児童の声）捕まえる必要がある虫。（ダニ、ハチと児童の声）ハチが正解。ハチトラップ。この時期は沢山出ないが、この森にもスズメバチがいる。スズメバチに刺されるとどうなるだろうか。刺されると倒れてしまうこともある。ブーンと寄ってくることもあるが、その時は静かにゆっくりしゃがむ。逃げない、騒がない。

○イラクサ

触ってはいけない草もある。かぶれて危ないので、軍手があっても触らないようにしたい。この先も出てくるので覚えておいて欲しい。いろんなものを触ってほしいと思うが、イラクサや虫には気をつけてもらいたい。また、国立公園なので、むやみに葉っぱなどをちぎったりしないようにしたい。道から外れると足が埋まって出られない場所もあるので、気をつけて歩きたい。

○ミズバショウ

(白菜みないなの何?と児童の声) 湿原に代表的な植物。ミズバショウ。水が大好きな植物。(ミズバショウを観察しに湿原に降りていく。ミズバショウに付いているカタツムリも観察する)

○ハルニレの大木

木の年齢を知る簡単な方法がある。メジャーで木の太さ、幹回りの長さを測る。(児童に手伝ってもらい計測) この木は 237cm。木の種類や生えている場所にもよるが、1年間に 5mm から 2cm 太くなる。間をとって 1年間に 1cm 太くなるとすると、この木の年齢は? (237歳と児童の声)。正解。伐って年輪という輪っかを数えてみないと正確にはわからないが、おおよそ 200 歳程の木ということがわかる。これから歩いていく木道の横には、こんなに太い木はあまりない。なぜないのかということを考えながら歩いてもらいたい。



○ヤマブドウの木

これはヤマブドウという木。この木はどこから始まっているだろうか。根からつながっているとして、どうやって道をまたいだ木に渡ったのだろうか。

○不朽している倒木

(カブトブシの木と児童の声) これは土に戻っていく途中の木。先ほどキノコが多くついていた木はやがて、このように土に還っていく。朽ちていく木を触ってもらいたい。場所によってはまだ硬いが、やわらかい部分が多くある。生きている木は硬いが、腐っていくとこのように、ふわふわとしてくる。



○ケヤマハンノキ

名前の通りに葉っぱが毛だらけ。軍手を外して触ってみて欲しい。こんなに毛だらけなのに、先ほど見かけたハムシは葉を食べることができる。

○木道沿いの植物の種類を数える

ミズバショウやコゴミ、ヨシやスゲなど、いくつか植物を覚えられたと思うが、その他にも沢山の植物が生えている。木道の近くに何種類くらいあるか数えてみて欲しい。(きりが無いほど沢山あると児童の声) 種類によって何が違うだろうか。葉の形や大きさが違うかもしれないし、他にも違いがあるかもしれない。

○湧き水の流れ

先ほどの小川のような流れが丘から沢山出てきている。湧き水の流れに沿って、ヤチボウズが一列に並んでいる。（ヤチボウズって水のあるところに生えるということ？と児童の声）ヤチボウズも水が好き。ただ、ヤチボウズは好きなところに歩いて行けるわけではない。初めからあのようになっているわけではない。ヤチボウズがどうやって水が流れるところに並ぶことになったのか、調べてみる面白いかも。 （釧路湿原って湧き水が多いんだねと児童の声）。そう湧き水が多い。丘から達古武湖まで流れている。では、釧路川の水はどこから来ているのか、考えてみてもらいたい。

○木道沿いのヤチボウズ

触れる場所にヤチボウズがあるので、ふさふさの中がどうなっているのか観察してもらいたい。ヤチボウズにも大きなものと小さいものがある。

○ノリウツギ

この看板が付いている木は枯れているが、生きていたら、枝を折るとノリのようなものが出てくる。昔はそれでノリにして使っていたようで、アイヌの人はシャンプーに使っていたとか。中身が空洞になっているので、ウツギ（空木）と言い、この木の名前がノリウツギとなった。

○カラマツ林（人工林）

湖の方を眺めた後に後ろを振り返ると、風景が全然違う。木の種類も多くない。（同じ木が生えている、暗い、陽が当たらないから？と児童の声）これは実は人工林で人が植えた木。湖の方は天然林。ここは今は国立公園だが、昔は国立公園ではなかったし人が住んでいた。入口にあったハルニレは270歳程だったが、そうした太い木はほとんど無く、若い木が多くある。人が伐って使っていた。（だから切り株があったの？と児童の声）天然林と人工林は全然違うということがわかると良いかなと思う。どちらが良い気分がするか、考えてみても良い。



○違う植物が生えているハルニレの木

これはハルニレの木。ハルニレの葉と、木から生えている葉で違う種類のものが見られる。なぜ一本の木から違う種類の葉が見られるのだろうか。（種が飛んできて落ち葉が溜まったところに落ちて生えた、水と空気と温度で発芽したと児童の声）ハルニレも実は水が大好きな木。

○沢筋で湿原の植物を観察

今日は特別に木道から外れて湿原の中に入ってみよう。むやみに走ったりすると足がはまって危ないので気を付けたい。（それぞれがヤチボウズ、ミズバショウなどを観察する）



○駐車場横のミズナラの花

葉についている芋虫みたいな花が、ドンダリの雄花。

■オートキャンプ場センターハウス到着・フィールド学習終了（11：30）

標茶町立標茶小学校 フィールド学習 2 回目 実施内容

《概要》

[日程] 2022年8月26日(金)

[参加者] 5年生児童38名

[案内] 山本、安田(公益財団法人 北海道環境財団)
石下自然保護官補佐(環境省釧路自然環境事務所)

[フィールド学習の目的]

- ・各児童の課題に応じて、目的を持ってフィールドでの観察、試料採集等を行う。
- ・これまでの学習を通して得た自然を見る目を持って、自然を観察し、新たな発見を得る。

[実施プログラムの概要]

9:20 達古武オートキャンプ場到着

9:35 オリエンテーション

9:40 グループに分かれてフィールドでの活動

11:30 フィールド学習終了

《実施内容(記録)》

■オリエンテーション(9:35)

○フィールドについての説明、散策する際の注意点確認、スタッフの紹介(北海道環境財団 山本)

■グループに分かれてフィールドでの活動(9:40)

○湖畔(カヌーポート)(全員で湖畔に移動)

大雨が何度か降り達古武湖の水位が高い。通常の時と比べて1m程は水位が上がっている。前は5月後半に来たが、風景に変化は感じるだろうか。(草が増えていると児童の声)これからさらに増えてきて9月中旬頃までがピーク。湖一面が草で覆われた状態になる。1回目の訪問で今年の黒くなったヒシが湖畔に多く落ちていたが、浮いているヒシを良く見ると実が育ってきていることを観察できる。ヒシが水面を覆うことで光が湖の中に入っていなくなり、元々いた植物が減ってきているという問題がある。ここでは何年も前からヒシを減らそうと様々な取り組みをしている。

ヒシをテーマにしている児童はこの場所でヒシを採集したり観察を行って欲しい(該当児童が湖畔に残る)



○キャンプ場敷地(湖側)

通常はキャンプ場の芝生が広がっている場所だが、一面水たまりとなっている。1回目は湖畔まで行ったが、今日は危ないので近づくことができない。水たまりの中を良く見ると、湖にいる魚が多く泳いでいる。魚をテーマにしている子はここでも観察してみたい。



○キャンプ場横を流れる小川

湖に近い場所では湖の水と一緒に小川の姿が見えないが、丘の方に少し歩くと湖の水が届いていない場所では小川の流れが確認できる。1回目の訪問で、この水は湧き水とお話した。ここにいる魚は湖に住んでいる魚と種類が違うかもしれないので、ここでも魚をテーマにしている子は観察して欲しい。（該当児童が水たまりや小川で魚を観察）



○遊歩道での観察、試料採集

遊歩道を歩きながら、それぞれの児童がテーマとしている植物等を探し、観察を行う。湧き水をテーマとした児童は、湧き水の流れが確認できる場所で持参したペットボトルに水を採集し、ヤチボウズ、キノコ、湿原の植物、土壌の様子など、それぞれのテーマに応じたものを観察し、許可を得た試料などを採集する。



○オートキャンプ場横の白樺の凍裂

凍裂をテーマとした数名の児童はオートキャンプ場横の凍裂したシラカバを観察し、亀裂の長さ、深さ、その様子などを観察する。

■オートキャンプ場センターハウス到着・フィールド学習終了（11：30）